

柔軟な教育システムに係る懇談会（第4回）の概要

- 1 日 時 平成18年11月17日（金）午前9時30分～午前11時40分
- 2 場 所 平安会館2階「朱雀」の間
- 3 配布資料 別添のとおり
- 4 出席者 委員：8名（代理1名を含む）
東 晴康、伊坂 はるみ、稲富 哲哉、小寺 正一、塩見 均、
下田 敏晴（代理：塩見江陽中学校長）、高畑 哲、田中 守 の各委員
- 5 内 容
 - （1）開会あいさつ 田原教育長
 - （2）第3回懇談会の概要の確認
 - （3）事務局からの説明
 - ・ 懇談会「まとめ」（案）について
 - （4）意見交換
主な内容は下記のとおり
 - （5）閉会あいさつ 森永高校改革推進室長

《全体に関して》

これまで議論になっていない、高校改革推進計画に記載された多部制についてであるが、多部制は補習や部活動の時間が確保しにくく、ホームルーム活動もできないため、集団への帰属意識が生まれず社会性を身に付けるという点で課題があるのではないかと。教師から見ても、夜間部と昼間部の生徒が入り混じって授業を受けると全体を把握できない。生徒も好きな時間に行っても良いというより、何時から何時までと決められた方が動きやすいと思う。

《現状と課題に関して》

今の中学生の実態、ニーズから高校をどう柔軟化するのかという視点も必要と思う。中学校で増加している不登校の子や経済的その他の理由で公立高校に行けない子を、枠を広げて行かせてほしい。

（事務局）学ぶ意欲、能力がありながら、何らかの要因でつまづいた生徒を救うのが出発点であり、経済的要因までいくと別個の政策課題になる。今の高校の全日制課程に頑なな部分があり、そこに光を当てて柔軟にしていこうという趣旨だ。

今の中学生のニーズや多様化に適応した変革という位置づけがほしい。

中学校時代は普通に学校生活を送っていた子が、高校というシステムの中でなかなかなじめないというケースがある。

現在の高等学校のシステムになじめない生徒を、現行のシステムを柔軟にすることで救えないかという視点で議論を進めてきたと認識している。

2 ページに「履修に馴染めない生徒の課題」とあるが、生徒の課題と言うよりも、制度上の課題、ということではないか。

教科等の好き嫌いの問題と不登校とは必ずしも結びつかないのではないか。

3 ページの委員の意見の中で、「高校時代に対人関係能力を高めておかないと～厳しい状況になる」という言い方は、もう少し決めつけない表現にした方が良い。

《全日制課程における柔軟な教育システムに関して》

卒業（在籍）年限数は無いという理解で良いのか、それとも現行どおりか。

（事務局）その制度を変えることまでは議論していない。

4 ページ（４）学習内容の実技系科目に「情報」も入れられないか。学習形態に関しては、大学進学も視野に入れ習熟度講座やＴＴ授業等の手厚いシステムもあれば良い。（７）サポート体制に関しては、心理学、教育学等の学術顧問や大学生も含めたカウンセラーの常駐、キャリアカウンセラー等の助言も必要ではないか。

大学生の導入は良い面もあるが、カウンセラーとしての入れ方は難しいと思う。また、このシステムでは、転入学の受け入れをどうするのか。

途中から他校の生徒を多く受け入れても生徒の背景等がわからず、無責任になる。

4 ページ（４）学習内容は、「教育課程の編成及び指導形態」というくくり方にして、生徒が自分の希望に合う進学や就職が見えるような教育課程を編成する必要があるのでは。

普通の全日制高校でちゃんとやれるという思いで入学した子どもが、途中で難しくなったときの行き先が今は定時制・通信制しかないが、全日制への転入学の道も閉ざさないでほしい。今後、考慮の余地はあるのか。

（事務局）懇談会で詰めきれない部分もあるので、今後、御意見を参考にしながら行政的に詰めていきたい。

サポート体制は、これを柔軟にするのではなく、柔軟なシステムを可能にするためこのようなサポート体制が必要ということなので、他の項目と別にした方が良い。

柔軟なシステムは、パイロット校的な学校を何校か作って、試行錯誤しながら他校にも広げていくのが良い。

府内の全ての地域で柔軟なシステムが使えるよう、例えば丹後・中丹・市内・山城というようにそれぞれの地域で立ち上げられないか。

交通の便が悪いと、たくましい子どもでも通学がしんどいので、北部のそういった事情にも配慮するべきである。

生徒の指導に関しては、プロフェッショナルな方の人選をお願いしたい。

《定時制・通信制課程における教育の柔軟化に関して》

7ページの委員の意見の中で、通信制での「がんばれ」という声かけの記述だが、一例であり通信制全体の話ではないので、削除すべき。

《事務局から》

今日の御意見をもとに座長と調整しながら修正版を作り、それを未定稿として各委員に送付して御覧いただき、御了解がいただければ正式な懇談会のまとめとして、座長から教育長へ御提出いただければと思う。